

議 事 録

会議名	平成２５年度 第２回 福岡市地域公共交通会議
日時	平成２６年 ２月１０日（月）１３時３０分～１４時４５分
会場	福岡市職員研修センター ４０５研修室
議事概要	
発言者	発言要旨
事務局	● 平成２５年度第２回福岡市地域公共交通会議を開会する。
会長	<会長挨拶>
事務局	<委員紹介>
事務局	● 福岡市情報公開条例に基づき、会議は原則公開としており、傍聴を受け付けている。 ● 議事録は、後日、福岡市のホームページに掲載する。 ● 過半数の委員が出席していることから、福岡市公共交通会議規則第６条第３項により、今回の会議は成立する。 ● 議事の進行については、福岡市地域公共交通会議規則第６条第２項に基づき、会長にお願いする。
事務局	議題１ 消費税率引上げに伴う運賃改定について <説明> 議題１ 議題１－１ 賀茂藤崎線 <説明> 議題１－１ 議題１－２ 今宿姪浜線 <説明> 議題１－２ 議題１－３ 板屋脇山線 <説明> 議題１－３
委員	○ 今宿姪浜線について、地域からは消費税率が１０％に引上げられるまで運賃を据え置く意見や、消費税率が上がる毎に段階的に運賃を値上げする方が抵抗感が少ないなどの意見が述べられている。利用者側からの立場からすると、短い期間で連続して値上げを行っている印象が強く、少し心配である。 １０％に引上げられた際は、再度この会議を開催するのか。運賃額への転嫁

	は一度で済ませた方が，利用者としては受け入れやすいのではないかな。
事務局	● ご指摘のとおり，今宿姪浜線の連絡協議会において，１０％に引き上げられた際にまとめて転嫁する方法，または，段階的に転嫁する方法の２つの意見に分かれた。何度も意見のやり取りを行った結果，全料金区間において一律に１０円の値上げを行う運賃改定案をもって連絡協議会の意見が一致した。 また，１０％に引き上げられた際は再度，地域公共交通会議にお諮りして議論をして頂くことになると思う。
委員	○ 事業者毎に運賃転嫁の考え方があると思うが，値上げが続くということが少し心配である。
事務局	● 一方で，板屋脇山線における運賃改定案は据え置きである。これは地域からの要望，並びに，事業者のご理解を得てお諮りしている。
会長	○ それでは福岡市地域公共交通会議として，議題１，議題１－１，議題１－２並びに議題１－３の内容について全て了承してよろしいか。
委員一同	○ はい。
事務局	議題２ 南区柏原地区におけるバス試行運行に対する補助金の交付について ＜説明＞ 議題２ 参考資料１
委員	○ この柏原地区の住民約１０００名のうち，何％の方が利用するのか，何か調査を行っているのか。
事務局	● 今回の検討にあたっては，地域が主体のアンケート調査を実施している。４５３人の方から回答を頂き，３３０人，約７３％の方から「利用したい」旨の回答を頂いている。しかし，他の事例でもあるように，アンケート結果と実際の乗車実績に乖離が生じる場合があるため，今回の柏原地区では社会実験という形での検証を行い，その後，運行内容の見直しや更なる利用促進の取組みに繋げていきたい。
会長	○ 地域への周知は徹底されているのか。
事務局	● 地域の住民に対して，説明会を開催しており，午前，午後の２回の説明会を

	行っている。また、地域の方が立ち会いながら運行ルートを決めている。運行が正式に決定次第、速やかに広報等に努めていきたい。
会長	○ それでは福岡市地域公共交通会議として、議題 2 の内容について了承してよろしいか。
委員一同	○ はい。
事務局	報告 1 「生活交通条例」に基づく支援施策について <説明> 報告 1 報告 2 西区橋本地区における地域循環バスの試行運行について <説明> 報告 2 報告 3 東区美和台地区におけるバス運行社会実験（第 2 回）の結果について <説明> 報告 3
委員	○ これから増々「高齢化」がキーワードになってくる。福岡市において、公共交通空白地や公共交通不便地といった基準を設けているが、健常者と高齢者では同じ 1 k m を歩く時間がかかなり異なる。例えば、高齢化率が 3 0 % を超える地区については、「高齢化率」を新しい基準として採用することにより、現行の基準である 1 k m の距離を若干短くすることや、高低差の基準を緩和するなど、新しい事を検討しても良いと思う。 社会実験などの取組みについては、事業者の負担も大きい。事業者の経営状況が好調な期間は、このような新しい取組みを継続して実施出来ると思う。今後も確実に取組みを継続できるように、現行の基準を更に詳細なものにして頂きたい。 また、路線単独で収支を考えると採算に乗らない。しかし、足元の交通が必要とされていることに間違いはない。市民が外出することで健康になり、医療費が下がると市の財政面からも良い。交通分野の括りだけでなく、総合的に考えて頂きたいと思う。
事務局	● 福岡市としても高齢者施策との連携について課題意識を持っている。高齢者乗車券などの外出機会の創出を図る取組みと生活交通確保の取組みに接点を何らかの形で見つけて行きたいと思う。社会実験などの取組みに対して、高齢者の方にも積極的に参加して頂いている。 また、柏原は公共交通が不便な地域での施策として、取組みが始まったばか

	りであるが、この取組みの結果を踏まえながら今後の展開を考えていきたい。
委員	○ 公共交通は維持、確保するというネガティブな面だけが求められているわけではなく、現在は地域のまちづくりと一体となって発展させる方向に議論が向かっている。国には幹線のバス交通に補助を行うなどの制度として、「地域公共交通確保維持改善事業」という制度を運用しており、過疎地域における幹線バス交通及び幹線系統に接続するフィーダー系統に対する補助金を平成26年度の予算案の中で、306億円を確保している。 また、地域交通の現状把握を行う調査を対象とした「地域公共交通調査事業」が用意されているので、そのような補助の活用も考えて頂きたいと思う。
委員	○ 高齢化社会が進展していく中で、バス停まで歩くことが困難になった方々に対して、タクシーの活用も考えられる。乗車人数が多い場合はバスを利用して、昼間の1人や2人の買い物の場合はタクシーを利用するなど、お互いが有効に活用できる新しい政策を行いたい。
委員	○ 一人で行動が可能な方々だけではなく、バスに乗りたいと考えているが乗れない方のことを考慮した協議内容にして頂きたい。
事務局	● 只今のご意見については、福祉有償運送という概念において、介護を必要とされる方に対して、市は一定の関与を行っている。板屋脇山線のデマンドタクシー方式など、様々な手段や組合せにより、様々な需要に対応していきたいと考えている。
委員	○ マイカー保有率は分かりますか。
事務局	● マイカー保有率は上昇しております。傾向として、高齢者の免許保有率は上昇しており、若年層の保有率は下降している状況でございます。
委員	○ イオンモール香椎浜にて実施しているパークアンドライドのような取組みを木の葉モールにおいて導入し、事業者の負担を減らす方法もあると思う。路線を通すだけでなく、様々なことを検討して頂けると有り難い。
委員	○ 介護タクシーの件は地域福祉の部門で検討されていると伺ったが、高齢者の部門を含めた形で本会議を進めて行ければ良ければよいと思っている。
事務局	● 生活交通条例の前文の中に、高齢者、障がい者の方々の移動をどのように確保していくかという課題意識があり、市民、事業者、行政が果たすべき役割が

	謳われているので、色々な方策について考え、この場で議論して頂ければと思います。
委員	○ 美和台の社会実験は終了していますが、今後の展開は。
事務局	● 地域の方々は社会実験終了後にワークショップを開くなど、運行再開に向け一所懸命取り組んでいる。今後も地域、事業者、行政と一緒に頑張って色々な方法を考えていきたい。
会長	○ 以上で報告については終了し、進行を事務局にお返しする
事務局	● 次回開催時期は現時点で未定であり、決まり次第ご案内する。 ● 今回の会議は以上で閉会する。